

ここでは、社内の情報を中心に毎月発行している、弊社従業員向け社内報『国際ニュース』から、記事を抜粋して掲載いたします。

令和4年3月号

おもしろ雑学



新社会人となる準備として銀行口座を開設する人も多いこの時期、数ある銀行から選ぶのも大変なほど銀行はありますが、日本で最初の銀行は渋沢栄一によって明治6(1873)年に開設された第一国立銀行です。その後全国に急増し第153銀行まで開設、各銀行を統率する中央銀行が現日本銀行の前身となり、その他の銀行は私立銀行へと変更されていきました。私立銀行の第1号は三井銀行(現・三井住友銀行)ですが、平成元年以降、バブル経済の崩壊や金融ビッグバンなどを経て、合併・統合・廃止・グループ化・ネット銀行など大きく姿を変えてきています。

＊編集後記＊

新年を迎えたと思っていたら、2月は逃げる月と言われるようにアッという間に過ぎて、もう弥生3月となりました。各地が大雪に見舞われましたが、少しずつ春めいた話題も聞かれるようになってきました。春告鳥といわれるウグイスは「梅に鶯」と言われ、調和の良いものを表し「柳に燕、紅葉に鹿、牡丹に唐獅子、竹に虎」と続きます。ん…？花札か刺青の図案かと思ってしまいます。ところで春は新しい環境へ旅立つ季節でもあります。コロナ感染の影響が長引く中、飛び出そうにも飛び出せない人もいることでしょう。特に新入生、新入社員となる若者が翼を縛られ、巣箱でじっと待っているような状況に置かれているのを思った時、とても辛い気持ちになります。若者だけでなく多くの人々が困難な状況や不便な生活を強いられています。ソフトバンクグループの創業者で投資家・実業家である孫正義氏は、悪い面ばかりを見ずに元気で仕事をしようとかんなことを言っています。「たった一度の人生だ。50年、100年先の世界の人々が感嘆するような仕事をしようではないか。志高く！」また「人に喜んでもらえる仕事をしよう」とも言っています。長引くコロナ禍の生活で心配や不満が嫌でも溜まってきますが、嘆いてばかりいないで未来に目を向けて、まずは間もなく迎える新年度のスタート準備をしましょう。そうそう、もう一つ孫氏のこんな言葉も紹介します。「髪の毛が後退しているのではない。私が前進しているのである。髪を時の彼方に置き去りにしてまでも前進するのだ」この気迫！この明るさとユーモア、こんな状況下だからこそ見習いたいものです。(I)

Facebookでもニュースを更新中です、こちらもぜひご覧ください。

— 社員の絆と歴史を紡ぐ —
社内報「国際ニュース」



最初の社内報「みんなのとびら」創刊号と当時編集長だった鳥谷会長(右)と現在発行されている国際ニュース



両面印刷で1枚だけの創刊号



初めてカラー印刷された500号記念号

社内報が「国際ニュース」という名で第1号が発刊されたのは、昭和45年11月のことで、平成24年6月には500号が発行され、500号は記念号として初のカラー版で、表紙の写真は社員からの応募作品から選ばれたものを採用しました。そして令和2年8月で598号、まもなく600号となります。

40年以上にわたって発行されてきた国際ニュースですが、社内報としての第1号は昭和42年7月に発行された「みんなのとりら」というものでした。当時はもちろんパソコンもなくガリ版刷りのものでしたが、新卒で入社した坂田さんという社員が、大学時代在籍していた新聞部の経験を生かし、当時総務部長であった現鳥谷龍一郎会長に「当社は本社と現場が離れているので、コミュニケーションを図ることが肝要であり、その媒体として社内報を発行しましょう」と提案して生まれたものでした。しかし、坂田さんがある事情で退職してしまい、その後継者がいないままに発行中止となってしまいました。

数年を経て、やはり社内報は必要だと感じた当時の鳥谷総務部長は再び発行することを決意し、名前も国際ニュースと改めて復活させました。今残っている創刊号を見ると、大きさは現在のもと同様、給与明細書に同封できるサイズでしたが、両面印刷の1枚だけでした。第2号は片面印刷の1枚、再び両面印刷となったのは昭和50年になってからでした。

その後も多くの担当者の手によって、内容や見た目も少しずつ変化しましたが、「給与明細書に同封できるサイズ」だけは今日まで守られてきました。従業員がいくつもの事業所に分かれ、また様々な時間帯で勤務しているという当社の状況では、確実に届ける方法として給与明細書に同封できるサイズであることが重要だからです。今までにもA4判のカラー印刷にしたらどうか、個人個人でなく事業所に1冊でいいのではないかなどの声も聞かれましたが、勤務状況が多様であることや本来のコミュニケーションを図るという目的から、このスタイルは今後も継続していくことと思います。

掲載内容は、会社の年間行事についてのお知らせ、人事発令、各種表彰、安全衛生関連、新入社員や新規事業所の紹介、国家試験合格者、退職者、慶弔関連、品質管理関連、関係する法令などの情報、税金や健康などに関する記事など、その時期に応じた内容となっています。以前掲載した事業所紹介や、社員からの投稿などは最近は残念ながら減少していますが、従業員の皆さんからの投稿はいつでも歓迎ですので、是非お寄せ下さい。

小さな冊子ではありますが、会社の歩んできた道を知るための資料であり、全社員に情報を伝え、一人ひとりを繋ぐ役割を持っていると思っています。どうか1ヶ月に一度手にとって目を通して下さい。これからも社員の皆さんと共に歩み続けていけることを心から願いつつ、毎月絶

【国際ニュース発行記録】

創刊号	昭和 45 年 11 月
50 号	昭和 49 年 12 月
100 号	昭和 54 年 2 月
150 号	昭和 58 年 4 月
200 号	昭和 62 年 6 月
250 号	平成 3 年 8 月
300 号	平成 7 年 10 月
350 号	平成 11 年 12 月
400 号	平成 16 年 2 月
450 号	平成 20 年 4 月
500 号	平成 24 年 6 月
550 号	平成 28 年 8 月